



兵協連だより

HYOGO CONSUMER'S CO-OPERATIVE UNION

2015 **3**



神戸市、コープこうべの壁新聞ブースで説明に耳を傾ける消費者庁
板東 久美子 長官



2月4日(水)、「平成26年度地方消費者グループ・フォーラム in 滋賀」が開催され、参加団体の活動報告や壁新聞による情報交換が行われました。消費者庁の取り組み報告や全体会のあと、「広げよう連携の輪」をテーマに3つの分科会が行われ、「ともに育む、生きる力」と題してコープこうべが報告。参加者は、子どもたちの「育ち」を支えるツールを手に取りながら、子育て支援活動についての活発な質疑が行われました。(関連ページ P.8)



全国大学生協連 大阪・兵庫・
和歌山ブロック 事務局長

藤江 正俊
(ふじえ・まさとし)

協同組合のあり方を 考える一年に

去る一月十七日、阪神・淡路大震災から二十年目を迎え、兵庫県下では様々な取り組みがおこなわれました。私ども大学生協におきましても、「阪神・淡路大震災二十年メモリアル」神戸から東北へ」をテーマに震災当時を振り返り、神戸と東北をつなぎ、今後起こりうる大災害への備えなどについて議論や交流の場を設けました。

このメモリアルでは大学生協らしい「学生ボランティア」の取り組みが多く取り上げられました。二十年前はまだ若かった諸先輩方から、ボランティア活動を通して成長していく学生のお話を伺う度に、自助・公助そして共助の助け合いによる協同組合の素晴らしさを実感することができました。メモリアルの中でこのようなお話がありました。その方は、震災で下宿先を失い、跡地で突然としている学生の後姿を見てこう思ったそうです。「目の前の本当に困っている学生に対して何もできない大学生協なんか、ない方がましだ」その時の想いを胸に、多くの方々に支えられて、大学生協として「仮設学生寮」の建設が実現したとのこと

でした。この想いは多くの大学生協関係者や学生に受け継がれ、あの東日本大震災でも多くの学生ボランティアが全国から東北に向かいました。

大災害時では、「誰かのために」という想いが生じ、その思いを行動に移しますが、日常的にはどうでしょうか。私たち協同組合に関わるものは、「誰か」を「組合員」に置き換えて行動ができていたでしょうか。組合員に寄り添った運営ができていたのだろうか。今回のメモリアルに参加して、あらためて自分自身にそう問いかけています。

現在、大学生協では事業を含めた連帯組織のあり方を全国規模で検討しています。この一年は十分に議論を重ね、「あるべき姿」を考えていくことになりましたが、決して忘れてはいけないことは、組合員のためにどのような組織を目指すのか、ということだと思います。組合員から選ばれる大学生協づくりのために、あらためて協同組合の意義と役割を考えながら、生協活動に取り組んで参りたいと思います。今後とも、ご指導の程、よろしくお願い申し上げます。

CONTENTS

- | | |
|--|---|
| <ul style="list-style-type: none"> 2. 想点 3. 第5回理事会 報告／第13回税務・経理講習会 報告 4. 東日本大震災 震災支援の取り組み 報告
生活クラブ生活協同組合都市生活／
神戸医療生活協同組合／尼崎医療生活協同組合／
阪神医療生活協同組合 | <ul style="list-style-type: none"> 5. 単協通信 生活協同組合コープこうべ／
神戸市民生活協同組合 6. 協同組合のかけ橋 7. 兵庫県のページ 8. 「兵協連だより」通信員・広報担当者研修会のご案内／
「地方消費者グループ・フォーラム in 滋賀」報告
県連日誌／編集後記 |
|--|---|

2014年度 兵庫県生協連 第5回理事会報告

I. 開催日時 2015年2月2日(月) 午後2時~4時

II. 開催会場 兵庫県民会館 12階「1201」

III. 出席者

本田会長理事、寺尾副会長理事、三宅専務理事、板崎、高橋、福島、新保伴、酒井、林田、嶋（以上、理事）、藤田、金丸、木田（以上、監事）

〈協議事項〉

- (1) 兵協連 2014 年度取支見通しと 2015 年度取
支予算案について
- (2) 兵協連 2014 年度活動報告および 2015 年度
活動計画案について
- (3) 役員選任規約一部変更の件
- (4) 兵協連 2014 年度活動報告および 2015 年度
活動計画案について
- (5) 2015 年度第 65 回通常総会に向けての手順ス
ケジュール

〈報告事項〉

- (1) 兵庫県学校生協解散（2015.03.31）に伴う兵
協連理事補充の考え方について
- (2) 2015 年度日本生協連・関西地連運営委員選
出に関する報告
- (3) 分野別生協からの状況報告について
- (3) 前回理事会～2月上旬までの兵協連行事、
活動報告について

税務・経理を身近に感じて理解を深める

～「第13回税務・経理講習会」を開催～



「税制」についての全体講義

まず全体講義では江藤氏より、環境関連投資促進税制や復興特別法人税の廃止などの「税制改正」と、平成27年10月からの「マイナンバー（社会保障・税番号制度）」について、わかりやすく解説。続いて、三宅氏より学習の心構えとして、「税務・経理を学ぶことは財務諸表を作るだけでなく、それを分析し、問題点を提言できる人材になれるように」というお話をいただきました。

1日目の午後からと2日目は、「初級クラス」「中上級・関連子会社クラス」に分かれて受講。初級クラスでは「税務・経理・財務管理の基本」を中心に、身近な設例に基づく税務申告書の書き方など税務の基礎を学習。また、中上級・関連子会社クラスでは少人数を活かしてマン・ツー・マンで税務・経理全般についての知識を学び、法人税申告書作成に取り組みました。

参加者からは「経理には、いろんな情報が集まっ

2月17日(火)・18日(水)、兵庫県民会館にて「税務・経理講習会」を開催。5会員生協（5関連会社）の役職員23名が参加しました。税理士 江藤俊哉 氏、MM コンサルティング 三宅充 氏、西宮市職員生協 統括部長 宮田正樹 氏を講師に迎え、午前中の税制の全体講義に続き、午後からは「初級クラス」、「中上級・関連子会社クラス」の2クラスに分かれて講習を行いました。

てくるので、ルーチンの作業だけでなく、活用できるように加工し、他部署や上層部に提言することが必要と感じました」「今まで知らなかった税務上の経理の考え方がわかって良かった」「法人税、税務を身近に感じる事ができた」などの感想が寄せられ、決算にむけて実践に役立つ講習会となりました。



中上級・
関連子会社クラス



初級クラス

～「忘れない」。復興への歩みとともに…～

東日本大震災から4年。被災地とともに、兵庫県生協連の会員生協をはじめ全国の生協の仲間が、現在も支援活動に取り組んでいます。防災・減災への教訓を次世代に継承しながら息の長い支援が続けられています。



リフレッシュツアー

(通信員 小松高志)

当生協は、生活協同組合エスコープ大阪(本部・堺市)ならびにNPO法人都市生活コミュニケーションセンター(事務所・西宮市)と、3団体が構成する東日本大震災支援プロジェクトを立ち上げ、支援活動を行っています。阪神淡路大震災を契機に継続してきた連携です。リフレッシュツアーは、福島県の生活クラブふくしま生活協同組合の組合員親子を対象に二泊三日、和歌山県のみかんの生産者をたずねたり、USJや王子動物園で遊んだり、淡路島で海水浴をしたりと、思う存分のびのびと遊んでもらう内容です。放射能汚染に不安を抱えて暮らす方々への応援を目的とした活動ですが、「関西に来て、久しぶりに深呼吸ができた」との何気ない子どもつぶやきに、思わず心が痛みました。これまで大人18名・子ども54名が参加され、今年の夏で6回目となります。昨年の5月に実施した大人だけのリフレッシュツアーも好評でした。子供が独立した世代や大人だけで息抜きをしたい方を対象とした初めての企画でしたが、千利休のふるさと堺市や京都の名刹の散策を楽しんでいただきました。今年はルミナリエにお招きしようというプランを練っています。神戸の鎮魂の想いと復興・再生への夢と願いを、福島の皆さんと共有できればと思います。これまでのツアー参加者との交流は続いています。福島で起きている事は私たち国民全体の問題として受けとめ、今後も心通わす輪を拡げていきたいと思っています。



(通信員 堤茂)

支援ボランティア活動も2011年5月以降継続した取り組みとして、2014年度は5月を皮切りに延べ6回・40名の参加で実施しました。2013年度以降は、継続する事を決意する為に非営利型一般社団法人INGを設立しボランティア活動を継続しています。2014年度に寄せられた寄付金は23名(団体)計186万2000円となり、支援活動の財政を支えています。被災者の声に耳を傾けながら、変わっていく心の変化や町の変化に併せた活動を行っています。宮城県山元町での支援活動ではこの秋に取り組みされた個別訪問行動にも参加し、被災地住民の「生の声」を聞きながら、自己満足ではなく心を寄せる活動を心がけながら取り組んできました。2015年度も3月をスタートとし、6回の支援活動を実施する予定です。

●生活クラブ生活協同組合都市生活 つながりの輪をもっと拡げて

●神戸医療生活協同組合 「忘れない!」東北に思いを寄せて

●尼崎医療生活協同組合 忘れない・息の長い支援活動を

●阪神医療生活協同組合 組合員活動の中で続ける支援

東日本大震災が発災して4年になります。尼崎医療生協では発災直後からの医療支援、避難所や仮設住宅入居者への生活支援活動を進め、今年度も生活支援活動で継続して支援に入っている宮城県山元町花釜釜地区での活動を行いました。



昨年9月には尼崎医療生協の若手職員が現地支援に入りました。被災した自宅を直して戻ってくる人がいる一方で、仮設住宅での生活を余儀なくされてしまう人たちも少なくありません。自宅に戻ってきた人たちへの訪問対話活動を行うと、生活の悩みや不安も多く出されました。「本当に、こうやって当たり前の生活を送れることが幸せ」と、何度もおっしゃる、山元町在住のみやぎ県南医療生協の組合員さんの表情の柔らかさ、温かさが印象的だったと支援活動に参加した職員は言います。

「忘れない」「息の長い支援活動」、これらの言葉を胸に、2015年度も宮城県山元町での支援活動を進めていきます。

(通信員 杉山貴士)

2014年3月11日に大掛かりな活動としては最後となる「あの日を忘れない募金」をJR尼崎駅改札前にて16時から行いました。5支部から集まった組合員約30名で気仙沼まちづくり応援寄付金の呼びかけを行い、9万8260円の募金が集まりましたが人々の関心が薄れていないことを感じました。継続的な支援では、支部での野菜販売をおして「小米販売募金」を続け、5月にはタケノコを気仙沼の仮設住宅と保育園に送りました。小さな子供たちのお礼の手紙と喜ぶ写真が届き、嬉しさと、また送りたいという気持ちにさせていただきました。今年の2月には野菜生産者の淡路島のおいしいみかんを南三陸の仮設住宅と社会福祉協議会、気仙沼の仮設住宅と保育園に送りました。これからも組合員活動の中で自然と取り組める支援活動が続けていきます。

(通信員 小城直樹)



生活協同組合コープこうべ

「協同組合を支える人づくりセミナー」

開催！

1月26日(月)JA兵庫中央会と生活協同組合コープこうべは「協同組合を支える人づくりセミナー」をコープこうべ協同学苑で開催し、JF兵庫漁連など県内協同組合の役員を含む143名が参加しました。「人づくり」をテーマにJAと生協が共催でセミナーを開催するのは今回が初めての試みです。



野尻武敏学苑長のはじまりの言葉の後、関西大学商学部学部長 杉本貴志先生による「協同組合の課題と職員の役割」と題しての基調講演。ロッチデールが目指していたもの、

う一度そういう協同組合をつくらうという動きが始まっていて、組合員の声を聴くだけでなく、そうした動きをキャッチして自分たちの協同組合に取り入れることが職員には求められている」と、今後の協同組合の方向性をご示唆いただきました。



協同組合の役割を果たすための人づくりについて考えました

続くパネルディスカッションでは、JA、コープこうべそれぞれの人づくりの取り組みと課題について報告し、「理念教育は必要か?」「顧客の声を聴くのと組合員の声を聴くのは何が違うのか」など本質的なテーマで活発に議論が行われました。参加者からは「今後の協同組合の在り方を考える機会になった」「協同組合間協同を進めたい」などの日々の業務につながる感想が寄せられました。

(通信員 齋藤 優子)

神戸市民生活協同組合

「大安亭市場」で事業を紹介

1月26日(月)、神戸市中央区の「大安亭市場」にて、共済相談会を行いました。「大安亭市場」は阪急・阪神電鉄神戸線春日野道駅の西側に位置し、現在約百店舗が軒を並べる大規模な市場です。その歴史は古く、明治末から戦前まで三宮東地区に存在した小野中道商店街の一面にあった大安亭という寄席が名前の由来となっています。

神戸市民生協は、地域の皆様へPRを図るため商店街や商業施設、各種イベント等で定期的に共済相談会を実施していますが、大安亭市場では今回が初めての試みとなりました。

当日は、火災事故の増加する冬場ということもあり、主に火災共済の紹介のほか、交通災害共済・個人賠償責任補償のご案内を行うなど、各共済のPRを積極的に行いました。立ち寄られた方からは、「借家でも火災共済に入れるんですね」、「ちょうどローンが終わり、火災保険の切り替えを考えていたので良いタイム

ングでした」とのご意見をいただきました。また自転車保険のニーズが高まっていることから「個人賠償責任補償について詳しく説明を聞きたい」などのお声を多くいただきました。

神戸市民生協ではこれからも、様々な地域の組合員の方に神戸市民生協を知っていただけるように広報・PR活動を継続していききたいと思っております。

(通信員 鹿田 裕子)



市場に溶け込んでがんばりました

JF

JF 兵庫漁連

シンガポールに「JF KANDA WADATSUMI」がOPEN！

～国産魚の情報発信・輸出拡大を目指す～

JF 全漁連（岸 宏会長）はシンガポールに海外初のアンテナショップ「JF KANDA WADATSUMI」（以下、ワダツミ）を1月23日（金）にオープンさせ、現地の法人関係者や在留邦人、日本からの参加者約140名が開店を祝いました。



（写真提供：JF 全漁連）

ワダツミは、①JFグループが直接、海外の消費者と接点をもち、国産水産物の価値をPRする。②海外の消費情報を直接収集し、会員に提供する。③輸出時における物流・保管・配送等のノウハウの蓄積を通じ、輸出増大と魚価向上に資する目的で、東南アジアの物流・金融取引の盛んなシンガポールに、国産水産物の情報発信と輸出拠点として開設されました。場所はシンガポール中心部の駅に近く、昼・夕方はサラリーマンで賑わう立地で注目度も高く、開店前から問い合わせも多いとのこと。

オープニングセレモニーでは来賓挨拶や鏡開きが行われた後、日本から空輸されたマグロ・ブリ・シマアジなどが会場に振舞われ、寿司の実演は参加者の注目の的となりました。また、（一社）全国海水養魚協会（嶋野 勝路会長）は、同日のセレモニーに先立ち、ワダツミで魚食と健康をテーマにした「日本養殖魚セミナー」を行ったほか、別の会場で「日本鮮魚祭り」も開催し、マダイ、ブリのほかトラフグなどの養殖魚を紹介しPRなどを行いました。

JF 兵庫漁連（山田 隆義会長：JF 神戸市）では、今回のオープンに合わせてマダコ・イカナゴを送り、今後も新たな食材の提供・提案をしていくとのこと。



JFグループの海外進出の足掛かりとして期待されます（写真提供：JF 全漁連）

JA

JA 兵庫みらい

農産物直売所『かさい愛菜館』でイチゴの試食会を開催

JA 兵庫みらい加西市いちご部会は1月7日、同JA農産物直売所『かさい愛菜館』でイチゴの試食会を開きました。同直売所は、この日が新年の営業始め。訪れた多くの買い物客らが、試食コーナーに並べられた「さがほのか」「紅ほっぺ」「とちおとめ」「根ね日ひ女の恋詩（さちのか）」の4品種を手に取り、豊かな味わいに舌鼓を打ちました。



イチゴをおいしそうに味わう来店者

今回で10回目となるこの試食会は、市内の農家5軒でつくる同部会が毎年開催。寒暖の差が大きい加西の風土を生かして栽培されたイチゴの消費の拡大を図り、ファンを増やそうと行っています。



生産者に特徴を説明する岡本敏晴部会長（左）

試食コーナーでは、生産者らが朝に収穫したばかりの新鮮なイチゴを用意し、来店者に品種やそれぞれの特徴などを紹介しながら加西産のイチゴをPRしました。また、イチゴを使ったマフィンや大福などのお菓子のレシピも一緒に配布し、好評でした。

来店者は「4品種とも甘くておいしかったが、食べ比べをしてみると味の違いがよく分かりました。気に入った品種のイチゴを買って帰りたいです」と笑顔で話していました。

同部会の岡本敏晴部会長は「この試食会が加西産イチゴのおいしさを知るきっかけになればと思います。熟すまでしっかり待って甘さと酸味のバランスが取れたイチゴを多くの消費者に届けたいです」と話していました。

出荷は4月末まで続き、同直売所などで販売しています。



最近の消費生活相談事例

開運商法のトラブル

事例

雑誌広告を見て、開運ブレスレットを注文した。届いた商品に「ブレスレットの着用方法を説明するので電話をして下さい」と書かれた手紙が同封されていた。事業者に電話をすると「先祖の行いが悪いので、幸せになれない」と言われ、邪気を祓うためにと、有料の祈とうを勧められ、つい契約してしまった。解約したい。

【アドバイス】

雑誌広告などを見て開運グッズを購入したことをきっかけに、祈とうなど関連商品の契約をさせられるトラブルの相談が、依然として寄せられています。

事例の他にも「先祖の供養をしたほうがよい。供養をしないと親や子どもに災いが降りかかる」「お祓いをすれば大金が手に入る」などと言われて高額な料金を支払ってしまったケースもあります。

多額のお金を支払うことで、運が開けたり幸せになったりすることはありません。不安をあおるようなことを言われても、きっぱりと断りましょう。

雑誌を見て、自ら事業者に申し込んだ開運ブレスレットの契約は、通信販売であるため、クーリング・オフ制度の適用はありません。しかし、今回の事例の場合、事業者にかけて電話で、新たに祈とうを勧誘され契約しているため、電話勧誘販売にあたる可能性があり、その場合は祈とうの契約をクーリング・オフできます。困ったときはお近くの消費生活相談窓口にご相談ください。

(兵庫県生活科学総合センター)



MOVE

2014年度『兵協連だより』通信員・広報担当者 研修会

●日 時：3月17日(火) 10時00分～12時00分

●場 所：神戸新聞社 ハーバーランド本社 (神戸市中央区東川崎町1-5-7 ☆最寄駅・JR 神戸駅)

お申し込みは
先着順 20名

I 編集現場の見学

①編集局 ②情報技術局 ③講義：講師・神戸新聞 記者 OB
(効果的な新聞づくりや取材のポイントなど) ※一部内容が変更になる場合があります

II 報道展示室「ニュースポート」見学

「阪神・淡路大震災発生から1週間の神戸新聞社とサンテレビ、ラジオ関西の報道の取り組みの展示資料の説明」

阪神・淡路大震災から20年。今回の研修会は、地域と共に歩む新聞社として、震災経験を原点とする「神戸新聞社」の防災報道の取り組みや広報実務について学びます。

●対象者：会員生協『兵協連だより』通信員および広報担当者

お申し込み・お問い合わせ：兵庫県生活協同組合連合会 (担当：中尾) TEL：078-391-8634

地方消費者グループ・フォーラムin滋賀

「広げよう連携の輪～消費者の安全・安心を地域から～」

2月4日(水)、ピアザ淡海(滋賀県大津市)にて「平成26年度 地方消費者グループ・フォーラム in 滋賀」が開催され、地域の消費者問題に関わる市民、消費者団体・行政関係者など約150人が集いました。今年で5回目となるこのフォーラムは近畿地域での「消費者市民社会の実現」にむけての活動につながることを目的に開催されています。今回は「広げよう連携の輪～消費者の安全・安心を地域から～」をテーマに、参加者は情報交換を行い、交流と連携を深めました。

19団体が参加した壁新聞交流会では、各団体・行政の活動内容の展示が行われ、神戸市市民参画推進局市民生活部消費生活課からは「高齢者の消費者トラブル予防策」についての紹介、NPO 法人 ひょうご消費者ネットからは「適格消費者団体」の活動紹介がありました。開会の挨拶では消費者庁 板東 久美子長官が4月からの「消費者基本計画」や、消費者問題のさらなる活躍への思いを述べられました。続いて行われた14団体による「壁新聞リレー紹介」では、報告や寸劇で、活発な活動が紹介されました。

その後、「見守りは地域から」「消費者教育の推進」「子どもの安全・安全の確保」など3つの分科会での事例報告が行われ、生活協同組合 コープこうべ 地域活動推進部 大河 琴恵 さんが「ともに育む 生きる力」と題して講演。壁新聞交流会の展示と同様、地域の活動リーダーの養成や、地域とともに子どもたちを育む取り組みなどを紹介しました。

消費者一人ひとりが、消費者問題について「気づく」「伝える」ために、さまざまなネットワークで人と人が「つながっていく」ことを感じる一日となりました。



壁新聞の活動紹介に見入る参加者

県連日誌

3月10日(火) 兵協連 第3回医療生協部会 (県民会館 ばら)

3月13日(金) 兵協連 ピースアクション委員会 (県民会館 ばら)

3月17日(火) 兵協連 「兵協連だより」通信員・広報担当者研修 (神戸新聞社)

3月18日(水) 兵協連 第2回医療生協部会組織担当者会議 (県民会館 ばら)

3月19日(木) 兵協連 第4回生活問題研究会 ひょうご消費者セミナー

3月24日(火) 兵協連 第6回生活協活動委員会 (県民会館 パルテホール)

3月26日(木) 兵協連 第3回保健・医療・福祉研究会 (県民会館 ばら)

編集後記

レンタル契約期間の都合で、兵協連のコピー機がFAX機能付きになったのを機に、世界遺産登録できそうな、いつ壊れるかドキドキしていた18年物の大型FAXが引き取られて行きました。家庭用FAX3台分くらいの大ささでしたので、窓辺も明るくなりスッキリ！。でも、そこにあるものがなくなるとちよつときみしい感じもします。しかし、習慣というのは恐ろしいもの。FAXを送ろうと思うたび、プリントを手にとって、元々FAXがあった場所あたりまで行つてはUターンして事務所内をウロウロしている、今日この頃の私です。(中尾)

